

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家 1号館		
所在地	愛知県名古屋市長熱田区1番3丁目8番25号		
自己評価作成日	令和2年7月21日	評価結果市町村受理日	令和2年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokkensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2390900039-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
聞き取り調査日	令和2年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一部ではございますが、他施設や病院などから困難事例を引き受けるなど、微力ながら福祉施設としてグループホームの役割に努めています。特別な事はしておりませんが、毎月の研修や会議の際接遇や高齢者虐待防止の為の情報共有をしており、日々のケアで活用し実践しております。そうは言っても毎日実践することは大変な為、職員同士協力し合い一人で無理な対応は極力避けることで、負担が少ない職場環境に努めております。それもあってか職員離職が少なく利用者にとっても顔なじみの職員がいつもケアしてくれる環境は安心できる環境かと思われます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の入居相談を多くもらい、可能な限り入居につなげている。また法人理念として地域の雇用にも貢献できるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学区内地域の催し物の中で、グループホームで参加できるものは参加している。新しいものでは神社での祭事		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の代表の方へ、介護事故事例や日々行っている企画等お伝えし、対応策や支援方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、地域包括、地域の代表にご参加頂き、報告や意見交換を行いサービス向上につなげている。また参加が難しい家族等には議事録にてお伝えし、返事を頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の担当者より当ホームへの入居相談及び、地域の認知症患者の受け入れ先の相談が出来る関係を作っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼文や3月に一度の身体拘束適正化検討委員会会議や年二回の研修で繰り返し知識向上に努めている。また参加できなかった職員には議事録やレポートを通じて周知に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の為、毎月の会議や定期的な研修などで学習や情報共有をしている。職員には虐待の芽チェックのアンケートの実施、管理者には年二回のレポートの提出を継続して行うことで、各自が自分を見直す機会も作っている。また利用者に不自然な点がないか、記録なども活用し些細なことも報告相談するよう呼び掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護に関する社内研修に職員も参加し制度の理解に努めるとともに、必要な利用者にはその制度を利用して頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には十分な説明を行い、重要事項説明書の内容の変更を行った際は、改めて説明し再同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に利用者やその家族が要望を表して頂ける様本部窓口のサービス向上110番の連絡先を掲示している。その他重要事項説明書にも外部機関の連絡先を記載している。また普段から本人や家族とコミュニケーションを図り意見を聞いて出来る限り要望に応えられるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や運営推進会議、カンファレンスにて聞く機会を設けている。基本的には普段から意見提案がしやすい関係づくりに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長く勤められる会社を目標に適宜職場環境の改善や整備に努めている。給与面では施設としての実績や個人としての資格、身分、勤務年数に応じて手当や処遇改善金の分配を変え頑張った分だけ認められる施設づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体で毎月社内研修を行うことでスキルアップに努めている。また外部研修への参加や資格取得の際は勤務予定を考慮し、個人への協力にも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の施設への運営推進会議の参加や区が開催する勉強会への参加等情報を共有する機会を設けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で利用を開始される前の施設や病院などと連携を取り情報を共有したり、本人や家族の要望を中心に生活の計画を立てている。意思疎通の困難な方に対しては本人の気持ちに添った計画になるようアセスメントに力を入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や意見をよく聞き、必要な場合はケアカンファへ参加頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に入居の必要性を十分考慮し時間をかけ入居判定を行い、サービス計画を立てている。他のサービスが必要な場合は地域包括への相談なども過去に行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ること把握し、家事やレクリエーションを共に行うことで、疑似家族の様な関係を気づいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人への月に1回以上の面会のお願いや、必要な物品のご用意、病院受診や緊急時の対応などご協力頂いている。また施設での判断が難しい場合は必ず相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人などが来設しやすいよう明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。また古い友人から電話があった場合はこちらから本人に繋ぐよう促している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況によってリビングの席替えをしたり、相性が良くない利用者同士は職員が間に入る事で共同生活に不安や不満が出ないように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも時折連絡を取り様子を伺っている。必要な場合は相談や支援を行えるよう備えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に傾聴し希望に沿った支援をしている。困難な場合はケアカンファで意見を募り計画や方針を決めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に生活歴を聞いたり、以前からの担当ケアマネージャー等から情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は業務開始時に申し送りや介護記録の確認をして個々の状況を把握している。また定期的にモニタリングを行いADLの確認をし、そのうえで一日の生活時間表を作成している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファに出席が困難な関係者は事前に意見を聞きチームでプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたことを毎日個別に記録している。それをもとにケアプランの見直しの材料にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のケア以外にも、外出支援や様々なレクリエーションを実施し、一人ひとりのニーズに出来る範囲で応えられるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の喫茶店に毎週通う機会を設け、馴染みの生活を継続出来るよう支援している。地域で開催されるイベントに参加しているものは積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医がある場合は、契約時に確認している。本人や家族の意向を尊重し継続してかかりつけ医に診てもらう事も施設の協力医に引き継ぐことも選択でき本人の安心安全を優先して支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回以上の訪問看護にて健康状態の報告や相談を行う事で医師とも各週情報共有が可能となっている。適切な処置や指示を受けられ、場合によってはそこから往診に繋がる場合もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーや医療情報提供書の提供を早急に行っている。出来る限り早期退院に協力し退院後も以前の暮らしに戻れるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と連携して看取り環境の整備に努めている。入居時に看取りに関する指針の説明同意をとり、実際に看取りを行う場合は早い段階で再度家族への説明を医師等立ち合いの下行い、方針を話し合って決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	複数の社内研修にて各職員、知識を得ている。実際の対応に関しては法人が作成したマニュアルに従い冷静に対応する。また協力医や看護師より日頃から指導を仰いでいる。数人の職員は上級救命教習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに沿って、年2回以上の防災訓練の実施、1回以上の水害訓練を実施しており、消防や行政との連携はもとより場合によっては家族にも協力頂ける様、日々理解を求めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議の際は、接遇についての話し合いを毎回行っている。その中で出た良いケアや声掛けを議事録にまとめ掲示し周知を図り各自が実践している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、話を傾聴することで本人が意思を表しやすい環境づくりに努めている。また選択を促す声掛けを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人全体の考えとして、職員の自己満足やこうあるべきという誤った認識を改善するというものがある。熱田の家でも利用者の気分や状態に合わせて業務を常に見直している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性なら髭剃り、女性なら髪の毛のセットなど毎日全ての利用者の整容には気を配っている。ケアプランに化粧やおしゃれを取り入れた目標設定をしたり、行きつけの美容院がある場合は個別で支援したりもする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者へ毎年嗜好調査を実施している。普段から利用者の意見を傾聴し出来る限りメニューへ反映している。食事の盛り付けや片付け等一人一人が出来る範囲での役割を担って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあった食事形態や食事量にて提供している。食事の時間帯以外でも水分提供の時間を設けたり、いつでも本人の意思で飲めるよう常時お茶をテーブルに設置している。希望者には夜間水筒を携帯して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝時と、声掛けや介助を行っている。義歯の利用者は夜間お預かりし洗浄している。また毎週必要な方には歯科衛生士による口腔ケアや職員へはアドバイスを頂いている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な利用者に関しては排泄表のチェックを行い、一人一人の習慣を出来る限り把握しそれに合わせトイレ誘導や声掛けを行っている。すべての利用者に対し基本的に日中はトイレでの排泄を目標としている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のこまめな水分補給や適度な運動を促し、出来るだけ自然な排泄を誘導している。下剤のコントロールが必要な利用者に対しては医師や看護師の指導の下、便秘にならないよう適切に服薬管理を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回入浴して頂いている。入浴拒否のある利用者に対しては、誘導時本人が警戒しないフレーズを選択し気持ち良い入浴が出来るよう配慮している。危険がない限り本人のペースで入って頂くため特に一人一人の入浴時間は定めていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝がなかなか起きられない利用者には、朝食を保存しておき起床のタイミングで提供している。また利用者の訴えに応じてリビングでも横になれるスペースを確保したりして。季節に応じて就寝時の室温の調整を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回提携している薬局から薬が届けられる際、介護職員に直接薬剤師の方から注意点や説明、その後の変化の確認がある。業務として利用者のお薬手帳や薬情の管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	土地柄、モーニングの習慣が強く各週喫茶店に行く機会を作っている。また個人の親しんできた趣味やできる事を把握し、活動機会を提供している。女性利用者が多いため飾りづくりやゲームカラオケ等レクリエーションを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩にて戸外に出る機会を設けている。家族の法事への参加や、施設にいる息子への面会等希望に沿って家族と協力して支援している。また地域の美容院を利用する際店内の見守りや迎えの電話のお願いなど理解と協力を得ている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の習慣や希望に沿って、個人で少額の金銭を管理して頂く事により本人の安心と納得につなげている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意見も聞きながら施設の電話を使用して友人や兄弟へ連絡して頂く事がある。また職員が本人より家族へ伝えたい欲しいことを頼まれる事が多々あり。出来る限り本人のペースで外部と連絡ができる環境作りに努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を聞いたり、アセスメントを行い、過ごしやすい室温や、明るさ等を考慮し、調整を行っている。季節の壁画や飾り付けを一緒に作成したり、レクリエーションの際の写真を飾ったりアットホームな空間づくりを心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、利用者同士の相性に配慮して席の設定を行い、利用者同士の自然で快適なコミュニケーションを促している。また横になれるスペースも確保しており、希望に沿って提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に沿って、馴染みの物や写真を飾ったり、好きな書物やテレビなど居室での楽しみも持ち込まれることで本人が居心地よくなるよう相談説明をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札、浴室には暖簾を設置し、場所をわかりやすくしている。また本人のADLや、排泄のリズムを考慮し、席の位置を配慮したり状況に応じて対応している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家 2号館		
所在地	愛知県名古屋市長熱田1番3丁目8番25号		
自己評価作成日	令和2年7月21日	評価結果市町村受理日	令和2年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokkensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2390900039-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
聞き取り調査日	令和2年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一部ではございますが、他施設や病院などから困難事例を引き受けるなど、微力ながら福祉施設としてグループホームの役割に努めています。特別な事はしておりませんが、毎月の研修や会議の際接遇や高齢者虐待防止の為の情報共有をしており、日々のケアで活用し実践しております。そうは言っても毎日実践することは大変な為、職員同士協力し合い一人で無理な対応は極力避けることで、負担が少ない職場環境に努めております。それもあってか職員離職が少なく利用者にとっても顔なじみの職員がいつもケアしてくれる環境は安心できる環境かと思われます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の入居相談を多くもらい、可能な限り入居につなげている。また法人理念として地域の雇用にも貢献できるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学区内地域の催し物の中で、グループホームで参加できるものは参加している。新しいものでは神社での祭事		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の代表の方へ、介護事故事例や日々行っている企画等お伝えし、対応策や支援方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、地域包括、地域の代表にご参加頂き、報告や意見交換を行いサービス向上につなげている。また参加が難しい家族等には議事録にてお伝えし、返事を頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の担当者より当ホームへの入居相談及び、地域の認知症患者の受け入れ先の相談が出来る関係を作っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼文や3月に一度の身体拘束適正化検討委員会会議や年二回の研修で繰り返し知識向上に努めている。また参加できなかった職員には議事録やレポートを通じて周知に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の為、毎月の会議や定期的な研修などで学習や情報共有をしている。職員には虐待の芽チェックのアンケートの実施、管理者には年二回のレポートの提出を継続して行うことで、各自が自分を見直す機会も作っている。また利用者に不自然な点がないか、記録なども活用し些細なことも報告相談するよう呼び掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護に関する社内研修に職員も参加し制度の理解に努めるとともに、必要な利用者にはその制度を利用して頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には十分な説明を行い、重要事項説明書の内容の変更を行った際は、改めて説明し再同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に利用者やその家族が要望を表して頂ける様本部窓口のサービス向上110番の連絡先を掲示している。その他重要事項説明書にも外部機関の連絡先を記載している。また普段から本人や家族とコミュニケーションを図り意見を聞いて出来る限り要望に応えられるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や運営推進会議、カンファレンスにて聞く機会を設けている。基本的には普段から意見提案がしやすい関係づくりに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長く勤められる会社を目標に適宜職場環境の改善や整備に努めている。給与面では施設としての実績や個人としての資格、身分、勤務年数に応じて手当や処遇改善金の分配を変え頑張った分だけ認められる施設づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体で毎月社内研修を行うことでスキルアップに努めている。また外部研修への参加や資格取得の際は勤務予定を考慮し、個人への協力にも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の施設への運営推進会議の参加や区が開催する勉強会への参加等情報を共有する機会を設けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で利用を開始される前の施設や病院などと連携を取り情報を共有したり、本人や家族の要望を中心に生活の計画を立てている。意思疎通の困難な方に対しては本人の気持ちに添った計画になるようアセスメントに力を入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や意見をよく聞き、必要な場合はケアカンファへ参加頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に入居の必要性を十分考慮し時間をかけ入居判定を行い、サービス計画を立てている。他のサービスが必要な場合は地域包括への相談なども過去に行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ること把握し、家事やレクリエーションを共に行うことで、疑似家族の様な関係を気づいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人への月に1回以上の面会のお願いや、必要な物品のご用意、病院受診や緊急時の対応などご協力頂いている。また施設での判断が難しい場合は必ず相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人などが来設しやすいよう明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。また古い友人から電話があった場合はこちらから本人に繋ぐよう促している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況によってリビングの席替えをしたり、相性が良くない利用者同士は職員が間に入る事で共同生活に不安や不満が出ないように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも時折連絡を取り様子を伺っている。必要な場合は相談や支援を行えるよう備えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に傾聴し希望に沿った支援をしている。困難な場合はケアカンファで意見を募り計画や方針を決めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に生活歴を聞いたり、以前からの担当ケアマネージャー等から情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は業務開始時に申し送りや介護記録の確認をして個々の状況を把握している。また定期的にモニタリングを行いADLの確認をし、そのうえで一日の生活時間表を作成している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファに出席が困難な関係者は事前に意見を聞きチームでプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたことを毎日個別に記録している。それをもとにケアプランの見直しの材料にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のケア以外にも、外出支援や様々なレクリエーションを実施し、一人ひとりのニーズに出来る範囲で応えられるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の喫茶店に毎週通う機会を設け、馴染みの生活を継続出来るよう支援している。地域で開催されるイベントに参加しているものは積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医がある場合は、契約時に確認している。本人や家族の意向を尊重し継続してかかりつけ医に診てもらう事も施設の協力医に引き継ぐことも選択でき本人の安心安全を優先して支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回以上の訪問看護にて健康状態の報告や相談を行う事で医師とも各週情報共有が可能となっている。適切な処置や指示を受けられ、場合によってはそこから往診に繋がる場合もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーや医療情報提供書の提供を早急に行っている。出来る限り早期退院に協力し退院後も以前の暮らしに戻れるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と連携して看取り環境の整備に努めている。入居時に看取りに関する指針の説明同意をとり、実際に看取りを行う場合は早い段階で再度家族への説明を医師等立ち合いの下行い、方針を話し合って決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	複数の社内研修にて各職員、知識を得ている。実際の対応に関しては法人が作成したマニュアルに従い冷静に対応する。また協力医や看護師より日頃から指導を仰いでいる。数人の職員は上級救命教習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに沿って、年2回以上の防災訓練の実施、1回以上の水害訓練を実施しており、消防や行政との連携はもとより場合によっては家族にも協力頂ける様、日々理解を求めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議の際は、接遇についての話し合いを毎回行っている。その中で出た良いケアや声掛けを議事録にまとめ掲示し周知を図り各自が実践している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、話を傾聴することで本人が意思を表しやすい環境づくりに努めている。また選択を促す声掛けを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人全体の考えとして、職員の自己満足やこうあるべきという誤った認識を改善するというものがある。熱田の家でも利用者の気分や状態に合わせて業務を常に見直している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性なら髭剃り、女性なら髪の毛のセットなど毎日全ての利用者の整容には気を配っている。ケアプランに化粧やおしゃれを取り入れた目標設定をしたり、行きつけの美容院がある場合は個別で支援したりもする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者へ毎年嗜好調査を実施している。普段から利用者の意見を傾聴し出来る限りメニューへ反映している。食事の盛り付けや片付け等一人一人が出来る範囲での役割を担って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあった食事形態や食事量にて提供している。食事の時間帯以外でも水分提供の時間を設けたり、いつでも本人の意思で飲めるよう常時お茶をテーブルに設置している。希望者には夜間水筒を携帯して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝時と、声掛けや介助を行っている。義歯の利用者は夜間お預かりし洗浄している。また毎週必要な方には歯科衛生士による口腔ケアや職員へはアドバイスを頂いている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な利用者に関しては排泄表のチェックを行い、一人一人の習慣を出来る限り把握しそれに合わせトイレ誘導や声掛けを行っている。すべての利用者に対し基本的に日中はトイレでの排泄を目標としている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のこまめな水分補給や適度な運動を促し、出来るだけ自然な排泄を誘導している。下剤のコントロールが必要な利用者に対しては医師や看護師の指導の下、便秘にならないよう適切に服薬管理を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回入浴して頂いている。入浴拒否のある利用者に対しては、誘導時本人が警戒しないフレーズを選択し気持ちの良い入浴が出来るよう配慮している。危険がない限り本人のペースで入って頂くため特に一人一人の入浴時間は定めていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝がなかなか起きられない利用者には、朝食を保存しておき起床のタイミングで提供している。また利用者の訴えに応じてリビングでも横になれるスペースを確保したりして。季節に応じて就寝時の室温の調整を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回提携している薬局から薬が届けられる際、介護職員に直接薬剤師の方から注意点や説明、その後の変化の確認がある。業務として利用者のお薬手帳や薬情の管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	土地柄、モーニングの習慣が強く各週喫茶店に行く機会を作っている。また個人の親しんできた趣味やできる事を把握し、活動機会を提供している。女性利用者が多いため飾りづくりやゲームカラオケ等レクリエーションを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩にて戸外に出る機会を設けている。家族の法事への参加や、施設にいる息子への面会等希望に沿って家族と協力して支援している。また地域の美容院を利用する際店内の見守りや迎えの電話のお願いなど理解と協力を得ている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の習慣や希望に沿って、個人で少額の金銭を管理して頂く事により本人の安心と納得につなげている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意見も聞きながら施設の電話を使用して友人や兄弟へ連絡して頂く事がある。また職員が本人より家族へ伝えたい欲しいことを頼まれる事が多々あり。出来る限り本人のペースで外部と連絡ができる環境作りに努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を聞いたり、アセスメントを行い、過ごしやすい室温や、明るさ等を考慮し、調整を行っている。季節の壁画や飾り付けを一緒に作成したり、レクリエーションの際の写真を飾ったりアットホームな空間づくりを心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、利用者同士の相性に配慮して席の設定を行い、利用者同士の自然で快適なコミュニケーションを促している。また横になれるスペースも確保しており、希望に沿って提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に沿って、馴染みの物や写真を飾ったり、好きな書物やテレビなど居室での楽しみも持ち込まれることで本人が居心地よくなるよう相談説明をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札、浴室には暖簾を設置し、場所をわかりやすくしている。また本人のADLや、排泄のリズムを考慮し、席の位置を配慮したり状況に応じて対応している		